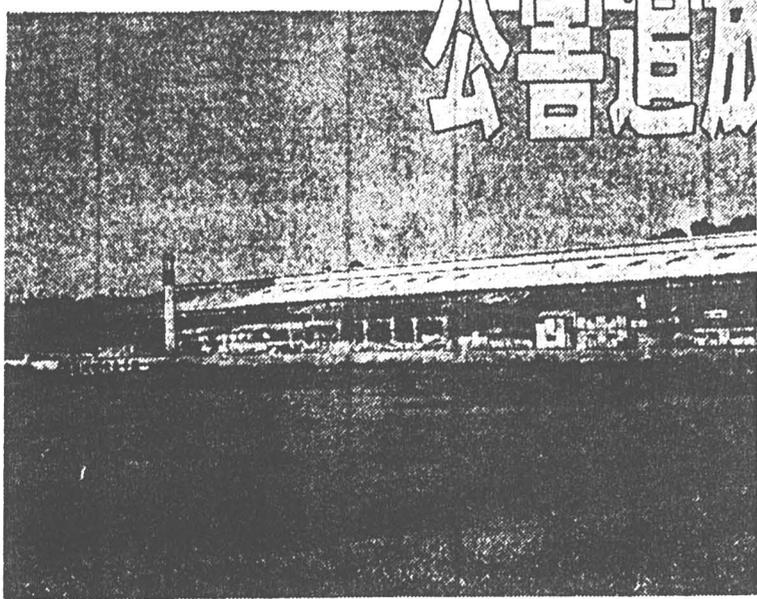


公害追放 住民の手で

水俣市袋地区に流出する共栄合板KKの建設現場



水俣市袋地区に自衛組織

環境をよくする会を結成

苦い経験生かし監視

独自に企業と防止協定も

水俣市を流れる水俣川に袋地区住民がチツソなどの合弁共栄合板廠(本社水俣市 製紙部長、資本金二億円)が排出するの毒をきつかけにこのほど「袋地区環境をよくする会」という住民組織をつくった。全住民から選ばれた代表が委員になり環境の点検、監視などをして関係当局や企業への働きかけ、住民への連絡、広報などをしていくとする特色のある公害対策住民組織。

共栄合板はチツソ、日商岩井旭夕ウ、東南製紙四社の出資で袋地区に合板工場を建設中。十一月半ばからは外材が袋港に運び込まれる見込み。袋地区唯一の大江場

近く新和町でも

農業公害などの解決に

汚水のたれ流しや埋戻しなどの公害は、住民が互いに気をつければ防げるものだ」と、元袋町新和町に、住民代表による公害対策協議会が近く発足、公害にきびしい監視の目を光らせていくことになった。今月末か来月早女にも初会合を開き、実働にはいる。

同時に大型農業を日ごす養豚、肉牛などの閉地があるほか、たばこ、ミカン、養蚕など狭い耕地に各種の農薬がひしめきあっている。不知火海を東はひかえ、漁業盛況も多い。これまでも、農圃の防除液がミカンにかかって困るとか、豚や牛のシ尿が川に流れ、悪臭を放つたり、農作業のピニールが海に流れ、スクリューに巻きついたなどの苦情が多かった。町でも当事者同士の話し合いで解決する以外に手がなく、困惑していた。

そこで町では、行政指導といううえからの対策ではなく、住民の立場からの公害追放のひとつの方策として注目される」と話している。

しかし湯敷 茂道などを含む袋地区には水俣病で痛めつけられた地域。このあやまちを二度と繰り返さないようにとの地域住民の声があり、合板工場からの公害についても目を光らせようと会の結成にこぎつけた。会長は農業関係一畑さん(二)、委員は各地区代表で湯さん、北道二入、南道二入、茂

道二入、神川一人の計八人。市と合板工場との間では公害防止協定が結ばれる約束はなっているが、今では近くに住民として独自の協定を結びたい意向で、被害が出れば操業短縮、もし設備が改修出来なければ操業停止を要求出来るような協定までもつていきたいと言っている。

なお、市議会の公害対策特別委員会でも、袋の工場のほか、県外同種工場などの視察をし、市でも住民の声を盛り込んだ公害防止協定を結ぶ計画をすすめている。